

学校教育目標	夢と希望と輝きをもつ 児童の育成	〔ミッション〕 ふるさと原を誇りに思い、生き生きと輝いて21世紀の社会に貢献できるよう、自分で考え自分で行動する子どもを育てる。
		〔ビジョン〕 ・自由と規律のある学校 ・風通しのよい職場 ・地域を大事にする学校
経営目標に向かうストーリー	☆七尾中校区、本校の研究テーマに共通している「自分の考えを持ち、説明する力の育成」に基づき、表現力の向上を目指した授業づくりを行う。 ☆行事等を通して地域の方々に親しみ、日頃のあいさつや会話等を通して感謝の気持ちを持つことにより、地域貢献への意識を涵養する。	

評価計画				昨年度末	目標値	第2回中間	第3回最終	達成度	評価
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標						
①【学習指導】 主体的、意欲的に学ぶ児童を育成し、確かな学力を身につける	◎原小学びのスタイルを確立し、教師の授業力を向上させる	・国語科を中心に筋道を立てて考え、表現する力を高めるための課題発見解決学習を行う ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善を進める	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の育成 【市共通項目】市目標値 85% <small>※全国学力・学習状況調査児童質問紙の肯定的評価からの数値から取る</small> ・「理由をつけて考えを表現することができている」児童評価 【校区共通項目】 ・「ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組んでいる」教師評価	85%	100%	100%	78%	90%	100%
(修正)									
②【生徒指導】 自分を大切に、友達を大切に、共に頑張ろうとする心と根気強く取り組む力を育成する	◎児童の自己有用感を高める 【校区共通項目】 より一層健康意識を高め、望ましい生活習慣の定着を図る	・自他の良さを互いに認め合える活動の場づくりと評価の工夫を行う （「かがやきの木」の全校への紹介・縦割り班掃除等の取組） ・健康チャレンジの取組を継続し、日々の生活習慣について、目的意識をもたせ、個に応じた具体的な方法を指導する	・自分は、友達のよさやがんばっているところを伝えている。 児童評価【校区共通項目】 ・「よりよい学級学校にしようとしている」児童評価 ・規則正しい生活・食事・衛生についての保護者の肯定的評価 ・「身の回りの整理整頓に気を付けている」児童評価	87%	90%	83%	92%	98%	87%
(修正)									
③【開かれた学校】 地域・保護者との連携を深め、信頼される学校づくりを進める	◎地域学校協働本部との連携を核として、児童と地域とのつながりが深まる教育活動を推進する  学校からの積極的な情報発信を行い、児童に関わる課題を保護者と共有し課題解決に努める	・地域と学校の協働により、児童の資質・能力・態度を育成する  ・児童の学習面や生徒指導上の課題に対して、迅速に対応する	・「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」教師評価  ・「学校は我が子の相談に丁寧に応じてくれる」保護者評価  ・「児童の課題に対し迅速に対応し、教職員間で連携して取り組んだ」教師評価	50%	60%	75%	100%	90%	96%
(修正)									

結果と課題の分析・改善方法等

① 課題の解決や、めあての達成に向けて学習する態度は育ってきているととらえられる。 「理由をつけて表現する力」については、児童評価も低い、教師評価「理由をつけて表現させている」も71%と低い。学習の中で意図的に理由を話す必然性のある授業を展開していく。教師評価が上がれば児童の力もつき、児童自身の評価も上がる。 UDについては、研究推進計画にはっきりと位置付けたり、年度当初に特別支援アドバイザーを招聘して研修を行なったことが職員それぞれの意識を高めることになった。	② 規則正しい生活・食事・衛生についての保護者の肯定的評価が72%と低い。ゲームやスマホなどを使う際に時間が守れないことが考えられる。家庭だけで解決することが難しい家庭もある。学校で情報モラル教育を推進しているが、そのことを保護者に通知したり家庭でのルール作りを推進したりすることが必要である。 「テレビやゲームの時間・きまりに対する保護者と児童の肯定的評価に差が20%あった。	③ コロナ禍でもできることに取り組むことができている。本年度から原小学校に勤務する職員も積極的に地域と関わろうとしている。 児童の課題に対しては担任だけで抱え込むことなく、複数で対応することができている。全体共有の場も、暮会等の時間を活用して実施している。
---	--	---

# 学校関係者評価の内容

## ①学習指導

- ・子供たちが元気に楽しんで登校している様子から日頃の指導が行き届いているのが感じられる。子供がよく育っている。
- ・高学年は自分の考えを表現する授業をしていた。子供が変わってきている。
- ・1年から6年までの積み重ねで変わってくる。
- ・タブレットを活用した授業で児童が自由自在に使いこなす様子が見られた。小学生のうちから使いこなして中学校に進学してくるのを想定して指導しなければならないと感じた。
- ・タブレットの基本的な操作で使える児童と使えない児童がおり差が生じている→操作で遅れるのはもったいない→基本的操作の課題を改善
- ・タブレットの使用に関して・・・学校で何を学んだりどのように活用したりしているのかを保護者にも伝えてほしい→メディアリテラシーについて指導→6年生児童が主体的にルール作成。情報モラルの朝会を2回実施。→情報モラル+学習での活用の両輪で進める必要。
- ・これからの時代、必需品になるためタブレットやパソコンを使い慣れる必要がある。しかし、「書くこと」の意味や思考しながら書き綴ることも同時に行わなければならないので学校で指導してほしい。
- ・中学校に進級すると学力や書く力等男女差が出てくる。→小学校ではどうだろうか？→差が生じない手立てを講じる必要がある。
- ・高校入試が現中学校2年生から変わる。「自己表現」自分の頭で考え伝える力の育成が喫緊の課題である。→小学生から自分を表現する、自己開示できる児童を育成する必要がある→朝一夕に育成できる力ではないため小学校から積み上げていかなければならない。
- ・伝える、表現することにおいて相手意識が必要である。誰に伝えるのか、何のために伝えるのかを意識させたい。そのためには指導者が意識したり、授業を仕組んだりする必要がある。→リモートでつながることができる時代だから日本全国、世界を視野に入れることも可能である。→授業で実践してほしい。(11月に5年生が吉和小学校の5年生に国語科で学んだことをミートで発表する授業を実施する予定である。)
- ・「**見知らぬ大人に説明できる**」説明力が必要ではないか。中学校でもそのように考えている。見知らぬ相手に説明することは、ハードルが高いが知らない人に説明できる力がつけば、大人になってからも社会に出てからも強みになる。

## ②生徒指導

- ・不登校傾向児童の増加→生活リズムを整える→学校+家庭+スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・特別支援アドバイザー等の専門機関などとの連携必須※中学校においてもゲームやスマホ等のトラブル増加

## ③開かれた学校

- ・地域を知ることが大切に行っていることは地域住民として非常にありがたい。地域を知ることを通してふるさとを大切にすることを育ててほしい。戦争の話など知っている地域の方も高齢化しているので学校で総合的な学習の時間等で学習するのもよいと感じる。
- ・コロナ禍ではあるが、できることを精一杯ひとつひとつ取り組んでいく。

### 【修正】

- ・「**見知らぬ大人に説明できる**」というキーワードで筋道を立てて表現する力を育成する。

### 【修正】

- ・保護者アンケートの項目を保護者がより具体的に答えられるよう変更
- ・チャレンジアウトメディア週間のみで終わらせず、継続的な取組にするために、取組の期間を2週間に伸ばす。

### 【修正】

- ・引き続き保護者からの相談に迅速に対応するとともに、気になることや児童ががんばっている姿などを学校側から保護者に伝えるように努める。

第3回(2月10日最終)学校関係者評価委員会

## 結果と課題の分析・改善方法等

①

②

③

- ・協議会報告を受けて、各部会で、新たな改善点があれば、下にご記入ください。

第3回(最終)関係者評価委員会を受けて最終報告

学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策

--	--	--

--

